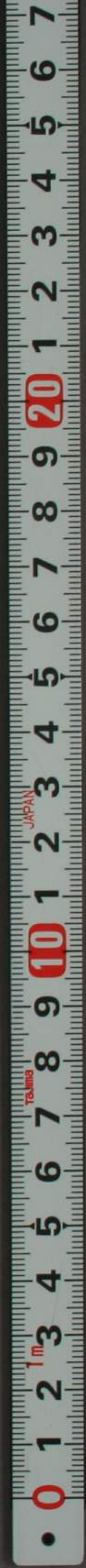


横濱開港見聞誌

中

特別
N4
4230
2



門 凡 4
 號 4230
 卷 2



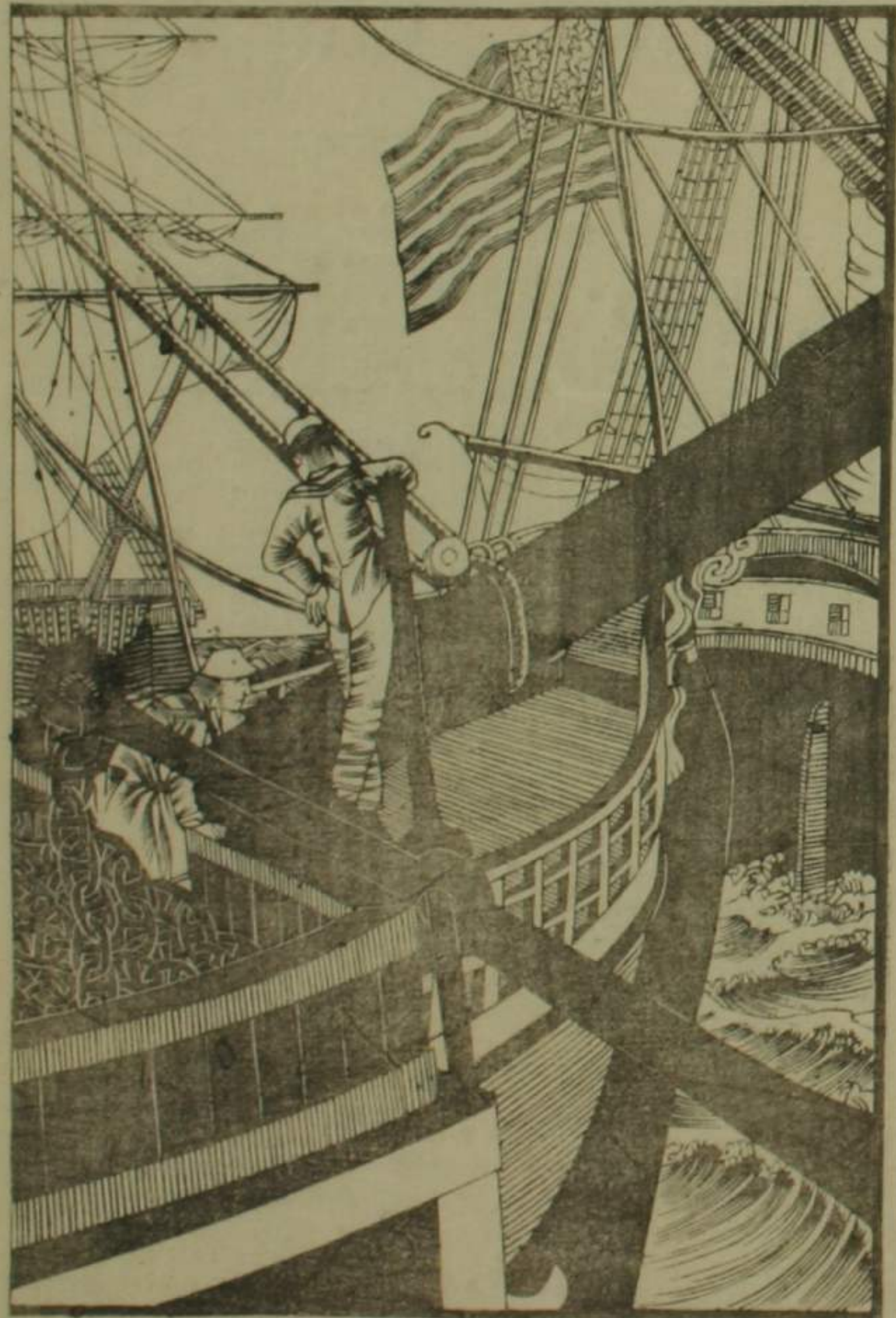
此編濱文庫ハ先ハ初編冊中ハ本町の商家其大通リ又新道又大見世の内
 印を畧シ出版を今此二編ハ選出ハ交易入船の五ヶ国其大洋を衆越来る大
 商異船の圖を以て初編次て休日の遊樂種々の有様并て異人商館の内或
 ハ飯時酒宴賣買書畫擊玉歌舞音曲連行走馬車馬波戸場ハ至りてハ
 荷物水揚之賑ハ阿蘭陀の寺院商館基所ハ黒人の沸丹是又畧因故
 出まふ幸と其異人町並を見渡す所其道道具飯盤其外見る処の形を写し
 異人又女性小兒ハ至りて其衣種々有之此編中ハ其二を出まふ余ハ三編四編
 と段々編を以て新渡来新御開地の景色をのぞみ至り商館のめづきき
 も沿も町と多海も陸とある此港ハ積入の金銀萬室無量の藏入大交易場
 何ぞ三の小冊ハ写し留得んや自然編を以て微細ハ至る

文久二戊午春

橋本玉蘭齋誌

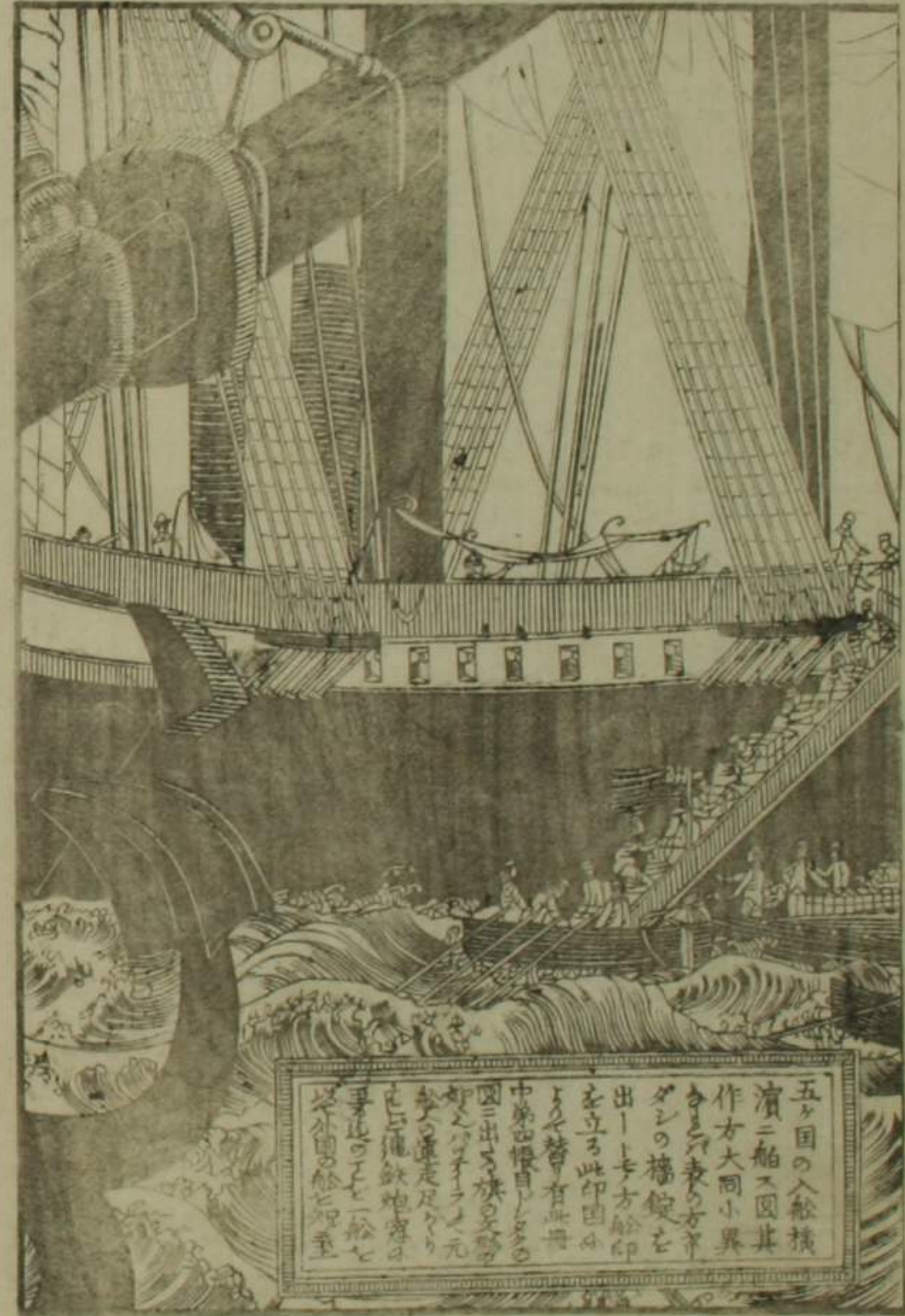
黄頁二

昭和三十年
 一月十八日
 橋本玉蘭齋



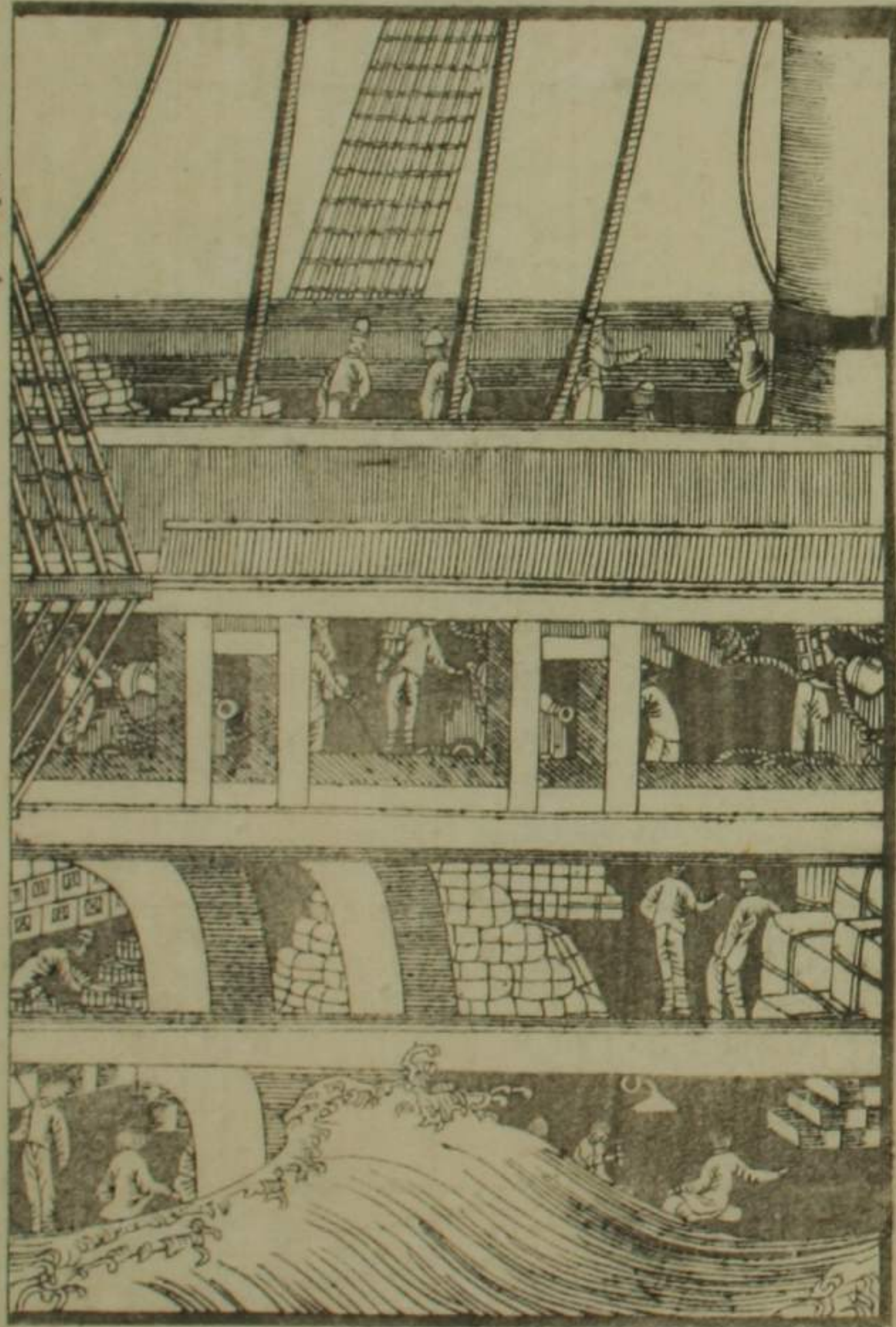
英艦

一



英艦

五ヶ国の人船積
濱二船ス國其
作方大同小異
各の標記を
出レテ方船印
を立テ此印國
より替有世丹
中第四標目シテ
國三出テ旗を
如クハチラ元
船大の速走足リ
能ク備飲地海
事此の二七船を
以テ外國の船と知至

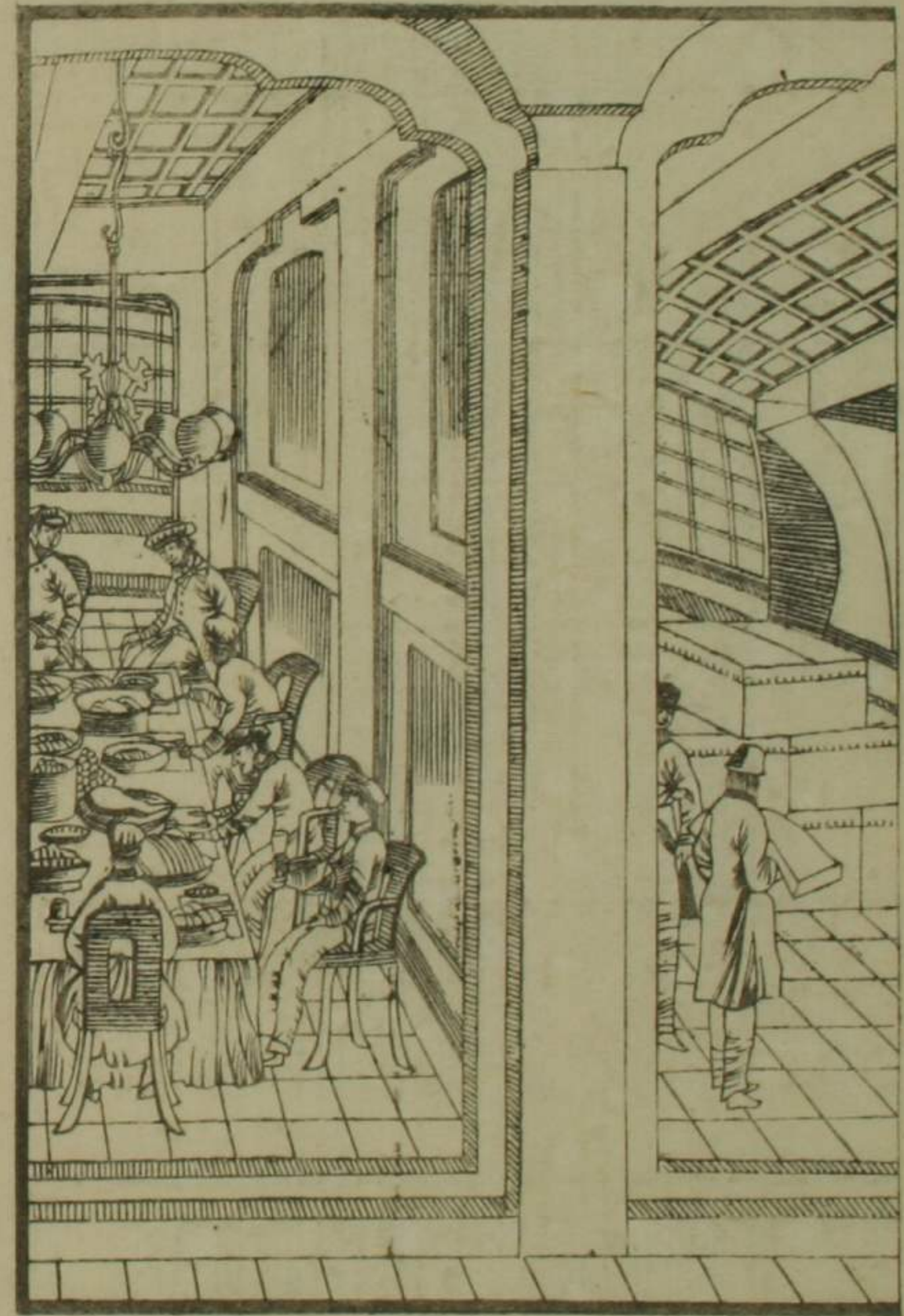
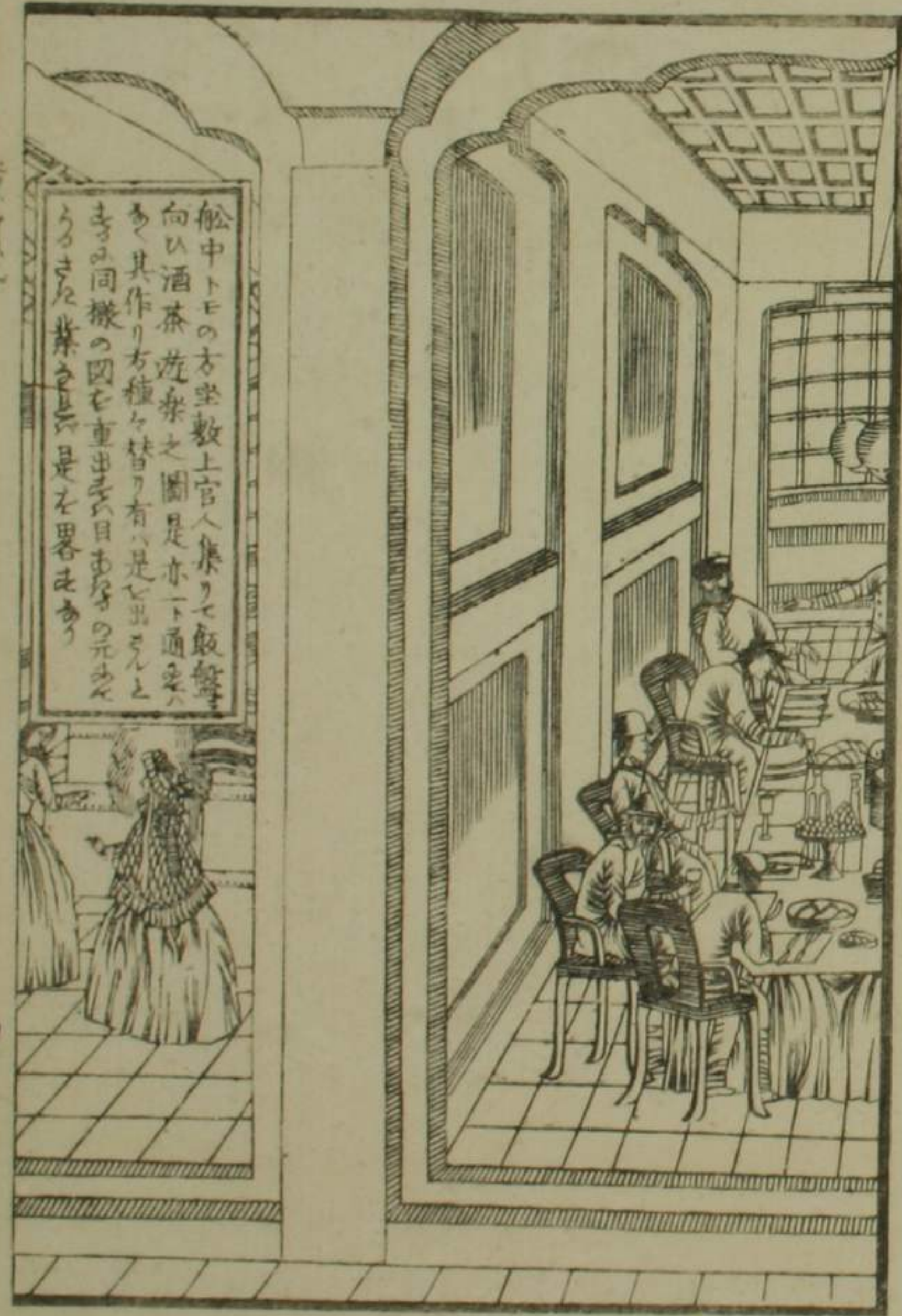


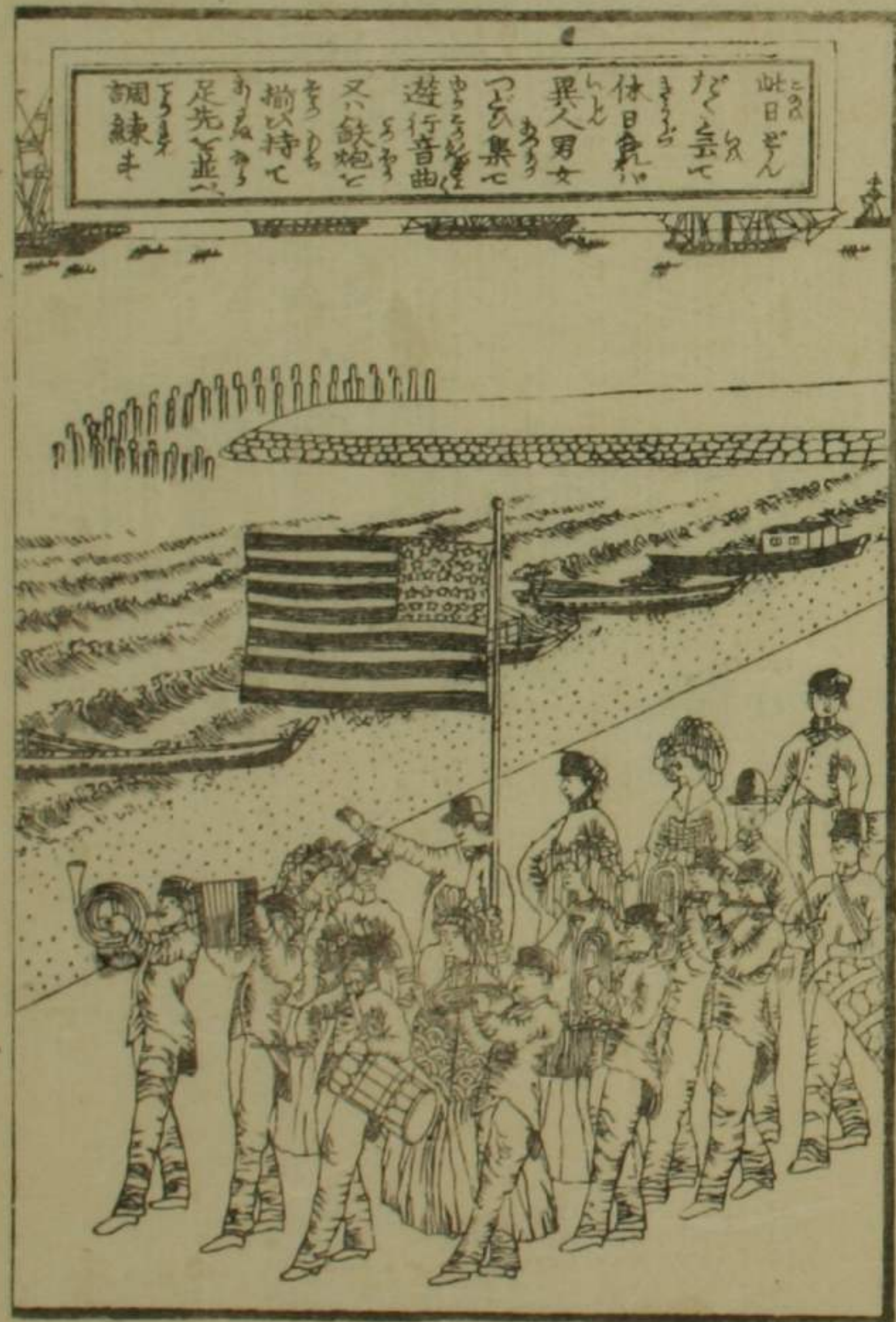
黄
頁
二



此の船は、大船
 面を以て其船と
 見ゆ、大船の四
 角、其の四角に
 荷物を載せ、其
 船の上下、其の
 上の方より、ロ
 口を以て、空を
 通し、又、別作
 船、其の船、
 上の方より、
 荷物を載せ、
 有る、外、
 有る、外、
 の、外、
 の、外、

木
港
三



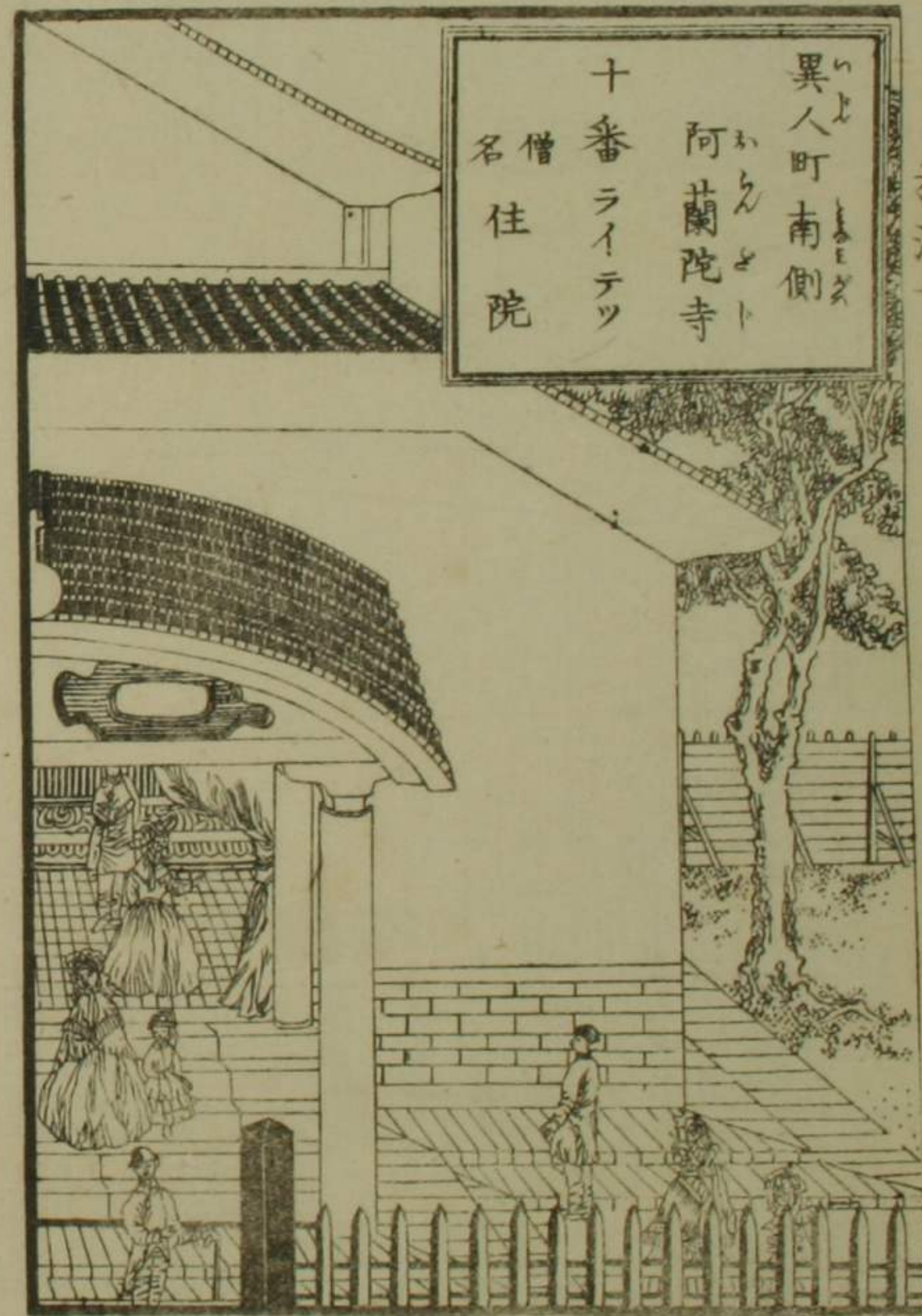
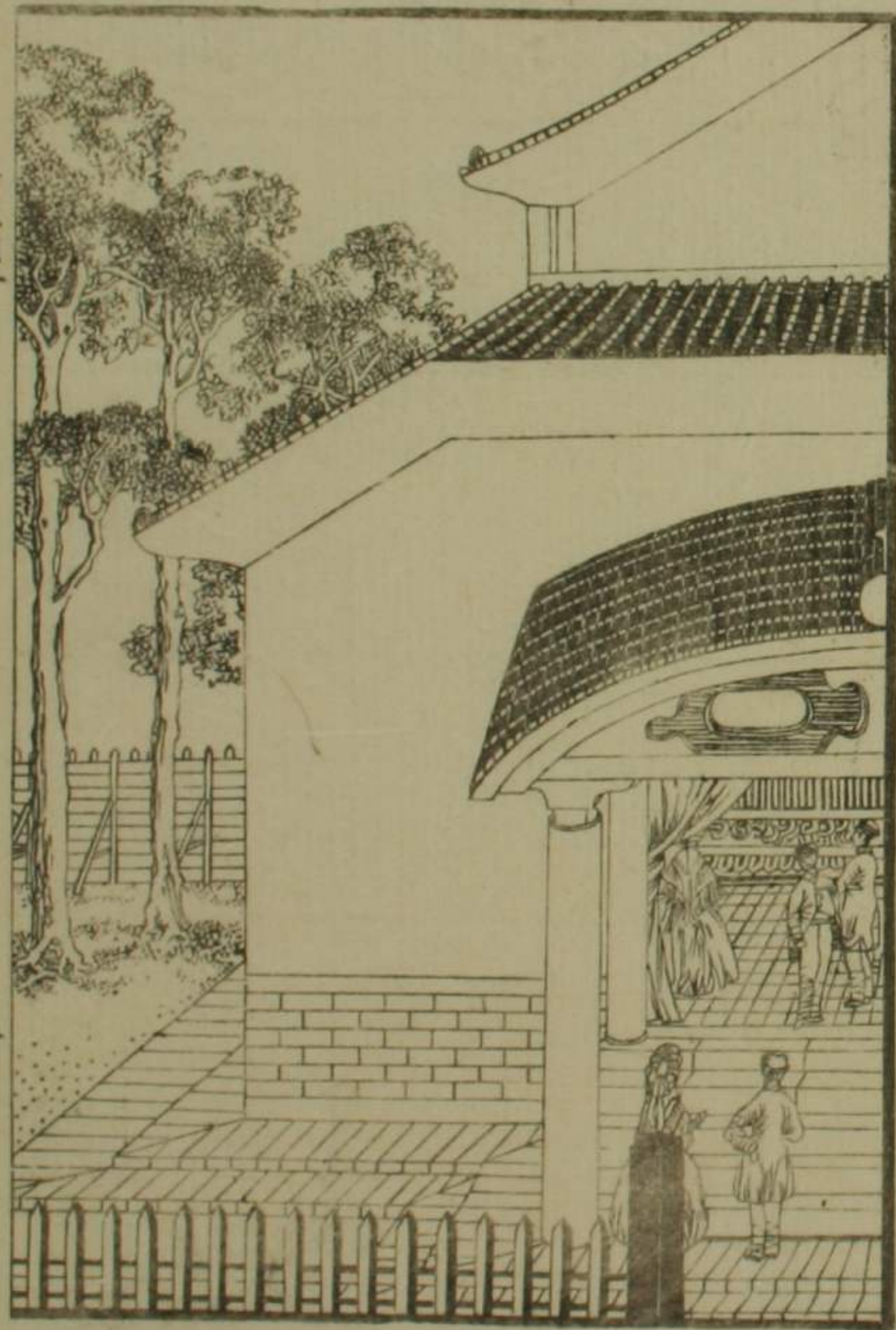


運上所より東異人
 商館町を見込たり
 之因多南京人の
 諸用本町み出る
 時子ふ似茶色
 の天と商館みくひ
 村々有と引て出也
 あり異女馬上乗小
 なる笠をもち面を
 うまをり多と用
 まく左右共商館
 門を並此真向遠く
 山を見たる杉上弁
 天の山あり



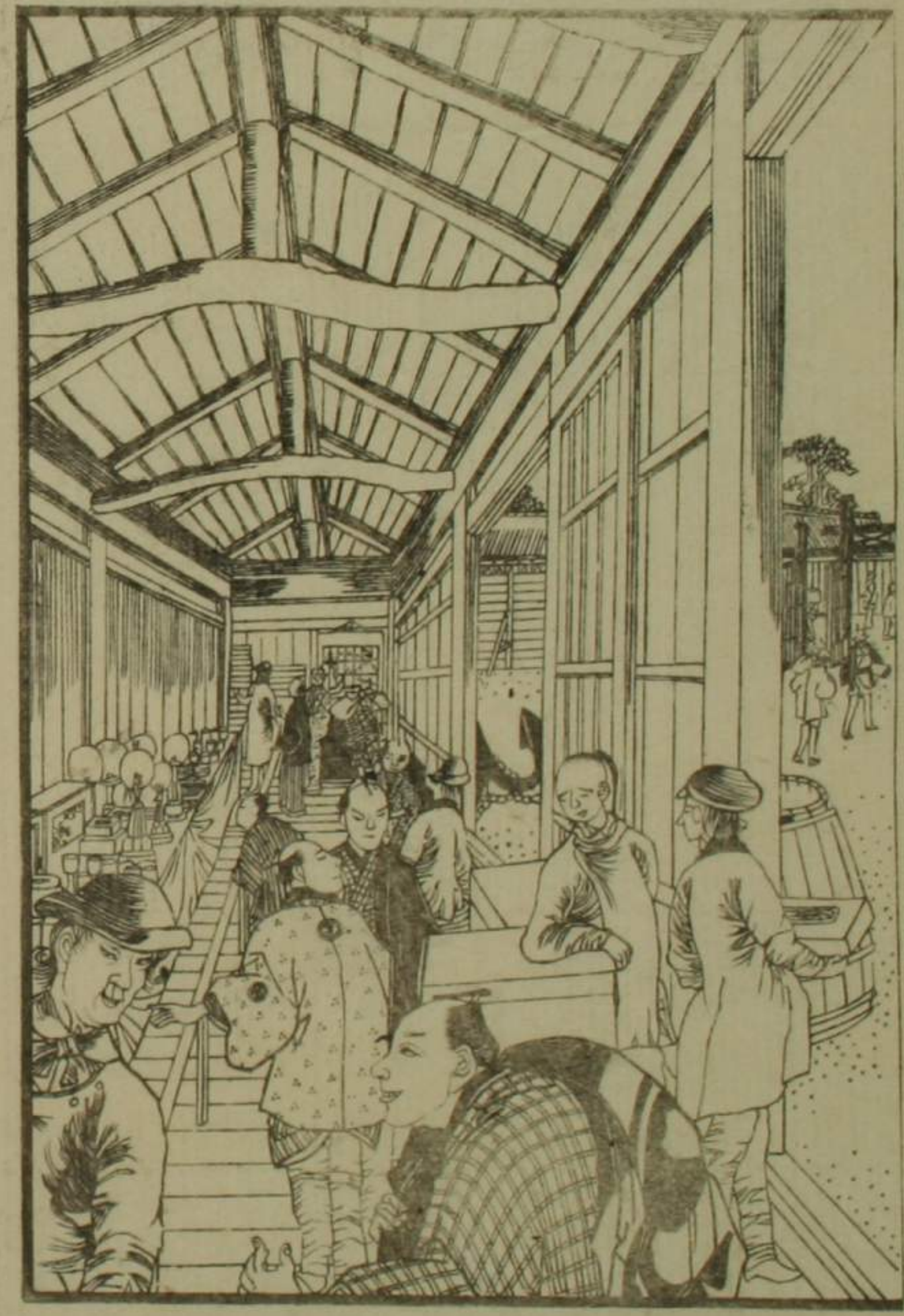
桐
 三

五

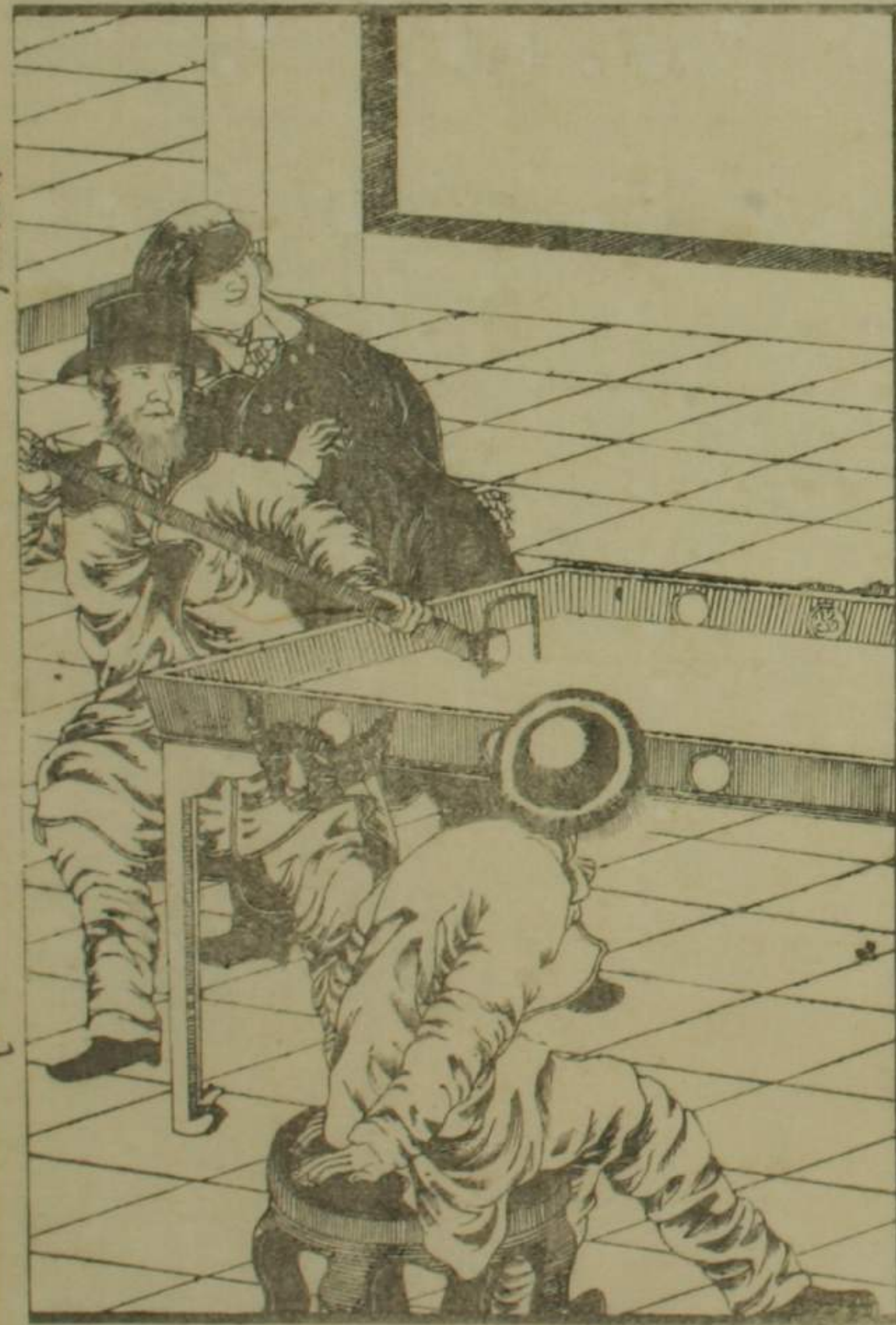


異人町南側
 阿蘭陀寺
 十番ライテツ
 僧住院
 名

異人町南側
 阿蘭陀寺
 十番ライテツ
 僧住院
 名



打邊爐



時



ケ王と云は吾國の小児土也ん
 打不同一様を以て左方右方
 同は是を以て出主王打合に九き此
 有丸き先のみ面を以てするはと用
 たる可く其尤へ落るも
 有其次差ふよりて勝負
 あり是もせん之を
 休日有あり
 常日ハ也

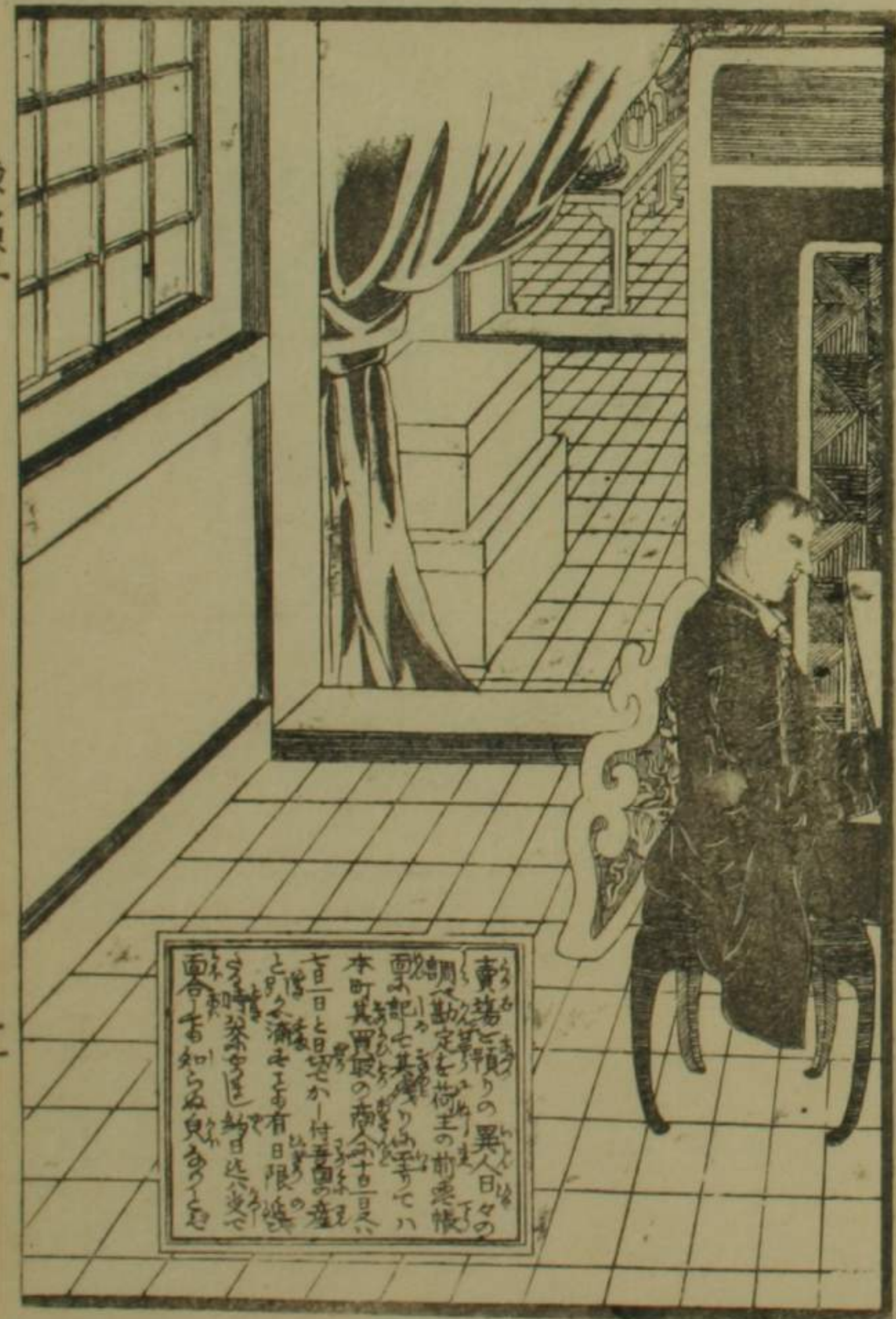
和漢

運入清水を運走する有
 様多し此等黒人女性
 渡来して異人商館に
 仕へ居る者多し此等
 物此黒人と云ふ東夫
 等此黒人又ハ此利加
 の大州の内等から来
 る者あり極熱國の人
 等其國原身の水桶
 小口を堅く之を固の
 如く名を運ば行あり



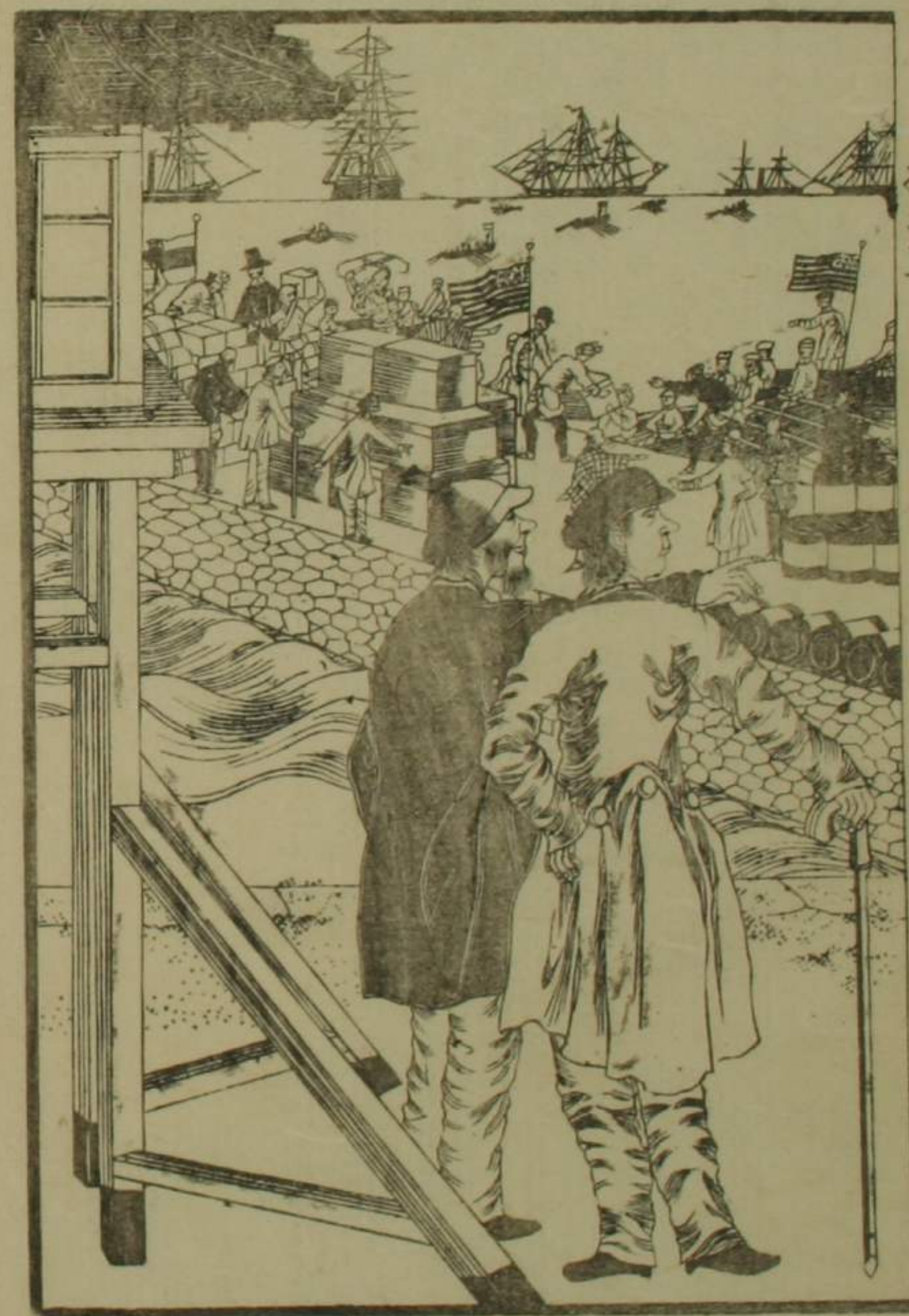
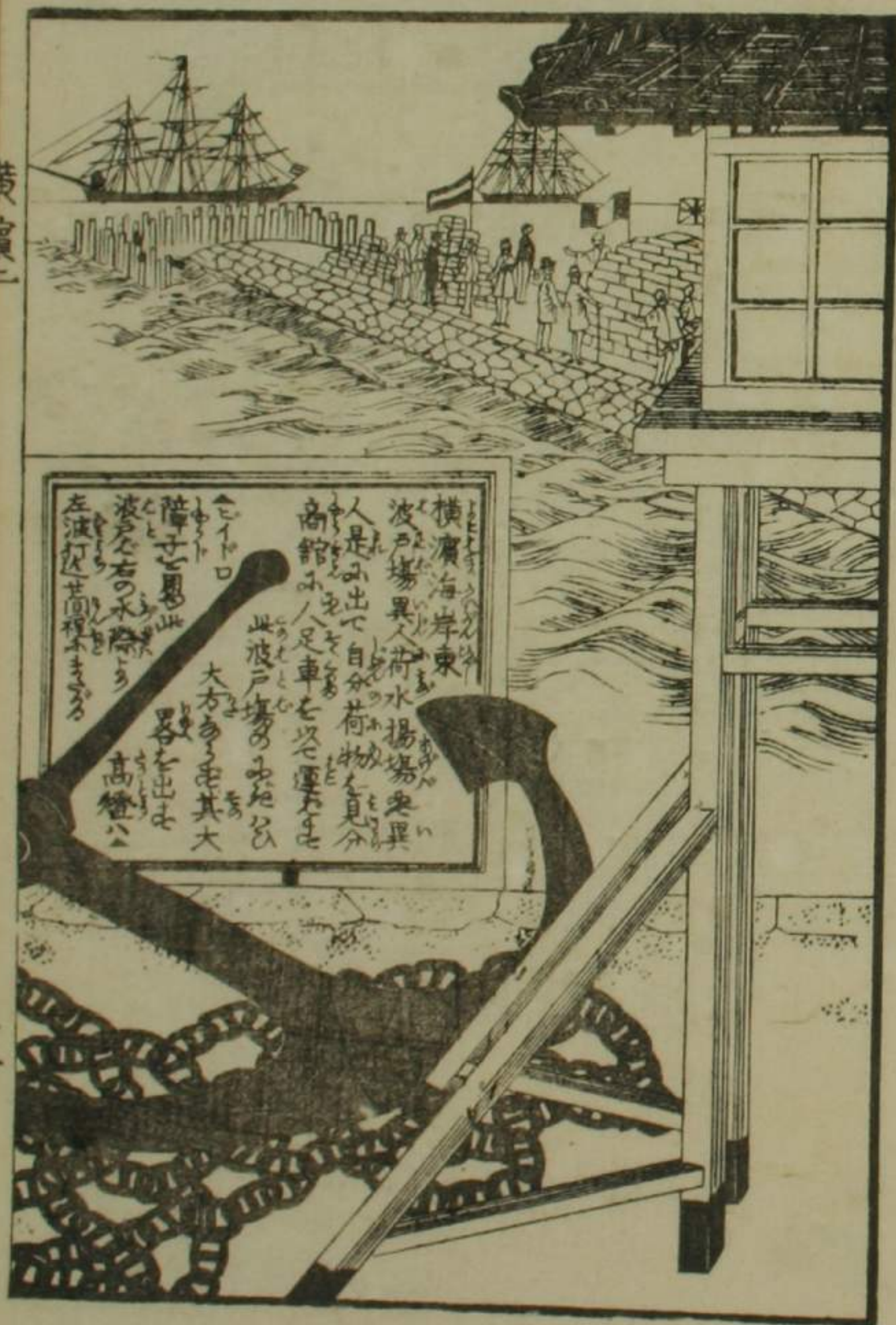
犬屋

六





商館二階坐敷を酒茶遊樂の圖
 真箇の障子ハイトロを用ゆる海士船
 在所の諸国の異船を見渡すと陸地の
 景色ナク取多くと最も美あり





黄瀬



異人商館の基所飯用料
 理の有ま多と鳥獸物を用
 ほとん牛油を用い何れも
 其物を煮る最も此ほとん
 毒消差の品菜とす

黄瀬



向少離れ大身太鼓と打小
 一足男女兒生や一同手拍子と
 揃足の方廻し揃へてまうと
 廻り何のてあはれさあ見あれと
 其国のみ有て思へ向なる小
 今日ええと踊るるさる



横濱渡来の異人集りて
 港寄町老七月盆踊と初太見
 物入たる時異走り行く
 長を見る其背台貞考本野
 用度あゆみ此日行時渡場不
 廣き処異人数多うほいひ
 港寄町のく九く立並ひその

出て杖をつたき有し此有さるを見て大い怒りの面色つゝあり上りて
車引を打んとし車引大いおこす仕形をばし荷物をつらげ行かば
車を引る中み又かき行ハ道もたゞとて異人因入まき荷物のま
早引行此処み車あをまはせ行んととるきあり早く引て行て仕まの
となんと杖より上て面色朱のこく髪左右よりとく足もあはし白眼
たるみ車人等のを残りし方荷のま此小石の中を車引るひ負を
て行るがあと彼異人つゞ見やて不見るあ彼追をらつると思ふあり
さぬとて杖をちゆく車の筋をちよくと埋て足音ゆきみつひ長き間の
二本筋中々前つゞ直らるるみ異人平気る面色も有とて又々
大木の植木をつまらる大車を引来りまらとて有さぬ杖より上りて
いそ荷物を手をつみしまら打さまらんと差國へ急を自今も
車の後みちつてかさを入る声を出して共み押せ車人といふ奇妙
々と一ツさみ引行ても異人車を急を心地より立ち道筋をつゞ見や腕

ふと面をまらわかんぐさる鉢あるを最も道へらつく土のね上り小石ハ飛
ちり前の車共み四筋のうらうらとる少いかんがるとあかん此とみ石事
替り有り阿蘭陀賣場み至り十八九間の下むある蔵のどく立る中み
蘭産の品物きあり其入ロニ野みし中ハ一面み廣長あり丸木のまら
を作り其向ふみ棚を作り毛纏を敷其上み種々の名品數多をかごる
まらの内蘭人杖をめぐ廻ると三四入是ハ吾國の万引さるえと彼防の
番人と同く多し正面み高くかひたる繪やりの物あり或ひ丸く又ハ角引
の中みあり是ハ地球の図み昔ハ球の内のみありか近來ハ丸き物の中
下筋さるく左右ハみちみ手杖み見るの図多し其内み五天州あり第一亜細
亞第二歐羅巴第三亞弗利加第四北南亞黑利加第五銅板みきりたりあり
近くハ石板あり又蘭書も多し重又赤色の毛織あり青色紺茶又種々
の花模様有バ美成鳴物ありビイド品ハ八面をらつりかやま金玉至り
て四方をがせせ実み目をらるるの有様みて言ふのふかたら此わら

とつふ戯れあり四の中みこしこれ又ふ思まきりあつたこの日ハ商館老由
 旗を立船印と同一波戸場み出て見渡芸海上も船ま処の帆綱み小旗
 を数多付その方々大旗を立船中の異人此日陸み来りて遊行は港崎
 町の遊女を初め茶屋の娘まで七月盆中踊り成るまは仲の町みあつて
 一同を穿る衣を以て白き手拭を若き娘を頼むり或はち巻又ハ
 多のふまこみ手扇を以て手習ひ足先揃へて歌舞をさすみ
 見物人の山をさき異人の元より黒人又ハ南京人の常みよ踊るあは毎
 夜この港崎町み来りて是を見物多てら山く思ひや後あつたあは
 ちやく頭をさき廻し両手をあて踊り込の踊り月中あつて止まりしるみ
 八月八日大さくく定まるとく勝手み遊樂するところ波戸場
 の廣き所みゆ男女つとみ集真丸み並居一人男異人大多太鼓を以て
 打込ハ其音みつとく何やんきをさくく一同み踊りて盆わりの中
 多れども又異州みあつた也手先足元と揃ひると多中の中南京人の

身も軽く踊りの品めよく美事みま元来此きんく月月初八日大さく
 とま今ハ四日みみさなりあり是ふより大中人たくとあとの休日ハ大の
 くとく商日ハぬんてく働き実み定めよるハ風俗多黒人ハ本町
 又ハ神奈川辺み使する其形頭み巾と巻付ると成よるとハ日本ちま
 めの緋麻の手又紫の手細涼みんと巻巻を何よりうらよるとハ異商
 ハ黒羅紗を後みたと金具を留る羽織み又ハ海老色ゴロフリンを
 惣餅一同のふみ作あり上黒色み下み又半分の胴着あり其色薄
 あは嵐色多ふ五色の糸やく横立島を織かいたるあり紺色羅紗を金
 具き一同巻束つたるを大み風流み心もちと見ゆるあは面舞ハ五ヶ目
 子のみ舞あはめい美事みま付作り毛の人あり又少くもあは黒毛頭
 み有とも冠物の真下み多き所ハ三分をふとみ取るもあは其衣服長
 の日ハ春も冬ゆてもさの替るぬやうあり女性を見るみ頭上み色々の
 巾を以てうすは笠の上を包みさくく後下り冠るあり美事多中の

のちて坐の裏小付頼をうのてつて願の下まむまひ長くさげたる
かみ着を廣中の色糸花鳥の類を織せしるあり又黒色青色を打
掛く組糸をさあぐの模様を組する細のこをを用也是ハ夏の衣
腰のこを足首をくまをの衣是ハ下廣がるこを組むるさくあり最
こけらるり付て其細きと見悪きやう多ふ又さく巻の物わりの方腰
めり付乳の下胸をた太小胸さく是又美事多物あり雨中は南
京風の八本骨多金を用ひ中ふも亞墨利加人三三番ウモリイトる人ハ
日本風薄紙細き蛇の目傘を用也夏日やちう金を用也又本町通り中程
阿蘭陀寺より近く右の並み英國十四番イリスストン商館ハ其屋根の上
ふ又小サ多坐敷ありて四方障子さくさく用也是も異形多作方よく
見立る其國ハ前ふかき運上町の後と高館町の間二丁ケ内を駒形町と云
左のう町家ゆへ唐物見せ又ハ酒見せさく其右側ハ異人屋敷亞墨
利加二十五番ニヨマハ女性多うと画図をさる油をのめさく是元来西洋風

あり異人といふも其年若き男子ふ女よりも美男ありて其性も何う
よく物下丁寧多有を見る時ハ国元ゆくハ大福長者の男子と思つ
女性多る是ふもさく最面色惣美く吾國人とも替るさく有
とも眼中み至りて玉の色浅黄多有玉の色黒茶色ととも毛の色黄赤
あり魯西亞阿蘭陀佛蘭西ハ鼻高く眼深し身丈長く大なる人多し
亞墨利加人ハ日本ハ同人多し又さくさく異人船入津のと大砲
打其音海陸一面ふ切れ渡りあさく有てハソテイラ舟も異人渡戸
場より二三段ふりて其身か足先の先をさく運上町ハ新渡来を
多きと思ふ今巻有中を頭置け袖ハ赤色下ハ白を腰さく足首
赤糸を筋ぬ有是ハ其國より付来る軍官人多大勢揃さくは
美事ありて船中ハ枕をさくをさくをさく異人綱をさくを登り
數丈の上で車の細をさく是と置て下ふさく時ハ一本綱み取付つくと中央
まて右み走り下是又前のさく走り下る船の手さくと思ふ中程より

ケルキトフレズ此品其賣場も出た数多あり今時大用也蘭人ハ又ウ
 生よく自分食する物の外ハ食まじしと云ふ吾國の蝟烏賊也その類
 を見れば白をあらめて手をろ是をきりんの類多く又蘭人のパンを製せ
 小小麥ハ井酒を入是れわらわなるものあり其名付らるものありと云ふ
 フロフトといふもの此外又種々の工多しといふ也此冊子丁数の定め
 も是ハ余ハ又三編に記す此処ハ筆を納む

橋本玉蘭齋誌
 五雲亭貞秀画圖

横濱文庫二編終

